HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	小特集序文：北海道大学CoSTEPシンポジウム 手のひらから宇宙まで～電波が創発するコミュニケーション，そしてアート～
Author(s)	種村，剛
Citation	科学技術コミュニケーション，21
Issue Date	2017-06
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66327
Type	other
File Information	9_jyobun_109-110.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

小　特　集
北海道大学CoSTEPシンポジウム
手のひらから宇宙まで
～電波が創発するコミュニケーション, そしてアート～

2017年8月から約2ヶ月に渡って，札幌国際芸術祭（Sapporo International Art Festival; SIAF）2017が行われる．芸術祭の開催に先立ち，同年3月11日に，北海道大学CoSTEPが主催となり，科学技術とアートの関係を考えるシンポジウム「手のひらから宇宙まで～電波が創発するコミュニケーション，そしてアート～」を，北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟　鈴木章ホールにて実施した（共催：北海道大学物質科学フロンティアを先導する Ambitious リーダー育成プログラム，協力：札幌国際芸術祭実行委員会）．

本シンポジウムの目的は二つある．一つは，電波を用いた通信技術を，アート，電波の原理，そして通信メディア史の三点から捉え直すことで，科学技術コミュニケーターに必要となる，事象を多角的に捉える視点を提供すること．もう一つは，アートと科学技術をテーマにすることで，科学技術コミュニケーションの有用性を，アートに強く関心を持っている人々に訴求することである．

アートと科学技術の融合について聴衆にイメージを持ってもらうため，シンポジウムの広報媒体は，企画の趣旨を理解しているデザイン事務所「空のアトリエ」へ制作を依頼した．

シンポジウム登壇者の多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科教授であり，ARTSAT×SIAFラボ（SIAF2017参加作家）プロジェクトリーダーを務める久保田晃弘氏は，アーティストの立場から ARTSAT 作品を中心に電波を用いたアートの表現について，北海道大学大学院 情報科学研究科教授の大鐘武雄氏は，電波とは何かを科学者の視点から，そして，東京大学名誉教授の原島博氏は，電波を用いた通信技術の発達と人びとのコミュニケーションの変化について，それぞれ講演を行った．

講演後には，会場の展示ディレクターを務めたメディアアーティスト・札幌大谷大学専任講師の小町谷圭氏をパネリストに加え，パネルディスカッションを行って議論を深めた．ディスカッションの進行は，CoSTEP 特任助教の朴炫貞が務めた．討論の最後には，新田孝彦　北海道大学理事・副学長（当時）が，それぞれの講演について総括を行い，シンポジウムを締めくくった．

本小特集は，これらの講演（原島 2017; 久保田 2017; 大鐘 2017），パネルディスカッション（朴他 2017）を収録している．

久保田氏は「宇宙からの芸術」と題して，衛星を使った芸術プロジェクト ARTSAT と，札幌国際芸術祭2017で実施するアートプロジェクト space-moere を紹介した．ARTSAT は衛星通信を用いて，宇宙と地球を結ぶメディアアートプロジェクトである．電波と超小型衛星の技術が，地球規模の芸術活動を可能にすることを示した．

大鐘氏は「無線通信の仕組みについて，不正確だけどわかりやすさを追求したお話…」として，電波と無線通信のしくみを解説した．講演の最後に「分かりやすい説明と厳密さは両立するのか」と科学技術コミュニケーターを目指すCoSTEPの修了生に問いを残したことが印象的であった．

原島氏は「電波と私～それはどう関わってきたのか？　これからどう関わるのか？～」と題して，電波と人の関わり，そして無線通信が人びとのコミュニケーションに与えた影響を，情報通信の歴史とともに解説を行った．情報通信技術の発達によって「メディア漬け」になった人々は，本当の意味で幸せなのかとの問題提起は，科学技術と社会の関係を考える上で欠かせないものである．

「パネルディスカッション～電波と共に描く未来～」では，ディスカッションに先立ち，小町谷氏が，space-moere で行うパフォーマンス Tele-coding の実演を披露した．討論では，技術を開発する研究者・技術者と利用者の関係，今後より重要になってくるアマチュア＝愛好家の立場，そして，アートとサイエンスの関係について，闊達な議論が交わされた．会場全体を使った展示パフォーマンスを組み込んで実施したシンポジウムは，今までにない新しい試みだったといえるのではないだろうか．これらの講演とシンポジウムの詳細は，朴（2017）においてもまとめられている．

北海道大学は札幌国際芸術祭2017と特別連携し，展示やワークショップ，トークイベントを実施する．その一環として，CoSTEPは，2017年5月13日に開講特別プログラムとして，芸術祭のゲストディレクターである大友良英氏を招き「科学とアートのコミュニケーションが始まる．」と題した一般公開講演を行った．この講演内容は，次号に収録する予定である．

文責：種村剛（科学技術コミュニケーション編集委員長）

●文献：

原島博 2017:「電波と私～それはどう関わってきたのか？　これからどう関わるのか？～」『科学技術コミュニケーション』21, 129-137.

久保田晃弘 2017:「宇宙からの芸術」『科学技術コミュニケーション』21, 111-118.

大鐘武雄 2017:「無線通信の仕組みについて，不正確だけどわかりやすさを追求したお話…」『科学技術コミュニケーション』21, 119-128.

朴炫貞 2017:「2016修了式公開シンポジウム報告「手のひらから宇宙まで ～電波が創発するコミュニケーション，そしてアート～」」北海道大学高等教育推進機構『ニュースレター』108（2017-4）, 26-28
https://high.high.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/06/108.pdf（2017年6月6日 閲覧）.

朴炫貞・久保田晃弘・大鐘武雄・原島博・小町谷圭 2017:「パネルディスカッション～電波と共に描く未来～」『科学技術コミュニケーション』21, 139-152.